



カットン、カットン、ザブザブ、ザブ……。規則正しく漉き桁を揺らす手から湯気が舞い上がる。からだの芯から冷え込んでくる東北の睦月。水は手が切れるほどに冷たい。紙漉きは寒漉きと呼ばれる冬の寒い時期に漉かれたものが特に上質といわれている。水に雑菌が繁殖しないから原料が腐らず、質の良い紙が漉き上がるのである。とりわけ生紙と呼ばれる

る真っ白な紙は冬場しか漉くことができない辛い仕事である。上川崎にはかつて三百戸以上の紙漉き農家があったという。いまその伝統を受け継ぐのはほんのわずか。それだけにひととき可愛い思いが募る。

